

3年D組 音楽科題材設計・学習指導案

指導者 三棟 優子

1 日時（場所） 令和5年7月5日（水） 13:30～14:20（章光堂）

2 教科領域別研究テーマ

生徒の学びを深める題材構成の工夫 ～教える授業から学び合う授業へ～

3 研究テーマ設定の理由

音楽科の授業を充実させるには、生徒一人一人が自らの考えを他者と交流したり、互いの気づきを共有し、感じ取ったことなどに共感したりしながら、音楽表現を生み出したり、音楽を評価して良さや美しさを味わって聴いたりすることが求められている。また、音楽科の学びには、音楽そのものの知識や技能を身に付けることの他に、非認知能力を育む重要な役割があると考えられる。育みたい能力とは、例えば生徒一人一人が主体的に演奏しながらも、周囲の音を聴きながら合わせて演奏しようとする思いやりや協調性、楽曲を演奏するために繰り返し粘り強く練習する忍耐力や自分の感情をコントロールしながら演奏を最後までやり抜く集中力などである。このような能力は、これからの時代を生き抜く全ての生徒になくてはならない汎用的な能力だと言える。

このような能力を生徒が身に付けられるようにするには、教師自身が意識改革を行い、生徒主体の学び合う授業づくりへと変革していかなければならないと考えた。そこで、これまでの研究の成果を継承しつつ、生徒たちの問いを中心として、「こう表現したい」という自分の思いや意図を持ち、音楽を媒体として試行錯誤しながら他者と意見交換したり、議論したりする場面を大切に題材構成の工夫を行う。自分と他者の思いや意図の折り合いを付けて曲にふさわしい音楽表現を創り上げていく学びを通して、生徒がウェルビーイングを実現するための資質・能力を高めていくことができると考え、本研究テーマを設定した。

4 題材名 混声合唱の豊かな響きを生かし、自分たちの思いを伝えよう

教材名 「Chessboard」 作詞・作曲：藤原 聡 合唱編曲：横山潤子

(1) 題材目標

- 「Chessboard」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。
「知識及び技能」
- テクスチャや構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、ふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。
「思考力、判断力、表現力等」
- 「Chessboard」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、混声合唱に親しもうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①「Chessboard」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ②創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。	「Chessboard」のテクスチャや構成を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「Chessboard」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	「Chessboard」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

(3) 指導と評価の計画（全6時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・Official 髭男 dism の音楽の特徴を捉える活動を通して、楽曲に込められた作詞者・作曲者の思いを知り、音楽の構成を理解する。	知 態		・構成を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 （発表） ・次時からどのような気持ちで歌っていきたいかを仲間と共有し、次時への意欲を高めている。 （ワークシート）
2 3 4	・各パートの音取りを通して、パートの役割や歌詞に込められた気持ちを感じ取る。	思		・意見交換したり歌い試したりする場面において、楽譜や歌詞を見ながら、表現意図を具体的に考えたり他者の意見を聞いたりし、歌い表そうとしている。 （観察）
5 本時 6	・全体の響きや各声部の声を聴きながら合唱をすることを通して、自分たちの思いが曲のふさわしい表現につながるよう工夫する。	知 思 ↓ 態	○ ○ ○	・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。（演奏聴取・観察） ・感じ取った曲想や歌詞の内容、構成やテクニクなどに触れながら、自分たちが目指す表現についてどのように工夫すれば表現できるかについて、自分なりの思いや意図をもち、具体的に他者に伝えたり、歌い表そうしたりしている。 （ワークシート・観察） ・自分が知覚・感受したことや他者の気付きなどを基に、どのように歌うかについて考えたり他者と共に歌い試したりしようとしている。 （観察） （支援）音程の不安定さを解消するために、発声方法を指導したり、ピアノで示す和音に音程を合わせるよう助言したりする。

(4) パフォーマンス課題

あなたは、他のパートの2名とともに3人でNHK全国音楽コンクールパフォーマンス部門に出場することになりました。自分の表現したい思いが曲のふさわしい表現につながるように、他声部との関わりを意識しながら、自分のパートをしっかりと歌いましょう。

5 題材と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒(32名)は、これまでの歌唱の学習の中で、ブレストレーニングや声を出しやすくするための身体の使い方(補助動作)、軟口蓋を開けることで豊かな響きが生まれることなどの発声方法を学んでいる。また、聴き手に歌詞を伝えるための方法として、語頭の母音や子音の発音の仕方も学んでいる。今まで学習してきた共通教材では、楽譜上の用語や音楽記号の配置の意図、作曲者の意図を自分なりに解釈する学習を行ってきた。そのため、楽譜上の用語や音楽記号を基に表現を工夫しようとしたり、それによって生まれた楽曲の雰囲気の変化を感じ取ったりすることができる生徒が多い。しかし、コロナ禍における合唱の学習は、感染対策を重視し、少ない授業時数で合唱を仕上げる必要があったため、教師主導で学習を進めてきた。そのため、合唱曲の歌詞から感じ取ったそれぞれの思いやイメージをもとに、全体の響きや各声部の声を聴きながら他者と合わせて歌い、自分たちで曲にふさわしい表現を工夫することについての経験は乏しいのが実態である。

(2) 題材について

本校の3年生は毎年学年合唱でNHK全国学校音楽コンクール中学校部門の課題曲を歌うことが伝統となっている。本題材で取り扱う合唱曲「Chessboard」は、今年度の課題曲であり、「同じ時代に同じ盤上にいる同士であるみなさんに、幸せがたくさん降り注ぎますように」

という思いが込められている。3年生にとっては、いよいよ自分たちの番であるという自覚を持ちやすく、歌詞に込められた思い、軽快なリズムに彩られた旋律、巧みな転調などの楽曲の構成や各声部の特徴を感じ取り、仲間と関わり合いながら自分たちのハーモニーを創り上げる楽しさを実感させやすい教材だと言える。楽譜に書かれている記号を、記号のまま自分の中に取り込むだけではなく、快活な表現へ結び付けるためのきっかけとして使うなど、どうすれば「歌声」に乗せて、混声三部合唱の豊かな響きを聴き手に伝えられるかを生徒とともに考えていきたい。学年合唱という仲間とともに音楽を創り上げる経験を通して様々な場面で音楽的な見方・考え方を働かせながら自ら工夫して表現していける生徒の育成につなげたい。

(3) 指導について

ア 音や音楽との出会いや学習課題の設定の研究

生徒が自ら課題を見付け、目標達成に向けて主体的に合唱に取り組めるように題材の導入時には二つの手立てを講じる。一つ目は、音や音楽との出会わせ方の工夫である。導入時に作者である Official髭男dismの音楽を聴きながら、音楽の特徴や構成を考える活動を取り入れる。「Chessboard」を初めて聴く時に自分たちで見付けた音楽の特徴や構成の工夫を生かしながら聴かせたい。二つ目は、学習課題の設定を生徒に委ねることである。音や音楽との出会い、歌詞との出会いを踏まえ、「どのような合唱に仕上げたいか」「そのためには、どのような練習が必要か」について考えさせることで、課題を自分事として捉え、主体的に課題の解決に向けて取り組めるようにしたい。

イ 音や音楽で交流し、感じ、考える学習活動の研究

パート練習やグループ学習を効率よく行うことで、自分たちの目指す合唱表現に向けて、どのような工夫をしたいのか、自分たちの演奏を客観的に聴く活動を通して考えさせたい。そして、自分たちの思いや意図を観点にして、これまでの表現と歌い比べたり、自分たちの演奏を聴き返したりする活動を繰り返し行い、変化した楽曲の雰囲気や良さについて、友達と伝え合うことができるようにする。また、歌詞に込められた意味を読み解き、表現の工夫につなげるために、教科横断的な学習として、国語科で歌詞の読解を行う。音楽科の授業で行うパート練習と、国語科の授業で行う「Chessboard」の言葉や表現の工夫や効果についての読み取りの成果を伝え合う、双方向の学習活動を展開し、表現の豊かさを追求させたい。

ウ 題材構成と学習の振り返り、評価の計画についての研究

生徒主体の学び合う授業づくりを行うため、「こう表現したい」という自分の思いや意図を持ち、音楽を媒体として試行錯誤しながら他者と意見交換したり、議論したりする場面子どもたちの問いを中心とした題材構成の工夫を行う。また、合唱の授業を通して自分の成長を自覚するために、導入時に抱いた「Chessboard」の印象が、本題材の学習を経て終末時にどのように変化したのかについて考えをまとめる活動を取り入れる。そうすることで、よりよい合唱を創り上げていく上で、曲を形づくっている要素やハーモニーのバランスなど、知識及び技能の価値を認識できると考える。生徒の主体的な活動の中で生まれた新たな音楽的な発見を生徒同士で共有し、表現を練り上げ、そのよさを伝え合う学習活動を行いたい。

学習の振り返りは、生徒が自身の学びを客観的に振り返ることができるようにするために、ロイロノート上で作成した振り返りシートに学習履歴を書き残させる。教師は生徒の変容を見取り、次時の授業における展開のコーディネートを検討する。

評価においては、生徒が能動的に学びやすくなるために、ループリック作成に生徒の意見を取り入れる。「主体的に学習に取り組む態度」の観点が「A」である姿を生徒に考えさせることで、生徒が題材のゴールイメージを明確にさせ、生徒自身の自己調整を促すことができると考える。

6 本時の指導（5／6時間）

(1) 主題 混声合唱の豊かな響きを生かして、自分たちの思いを伝えよう。

(2) ねらい

「Chessboard」の歌詞のイメージと曲の構成、テクスチュアを生かし、思いや意図をもって表現することができる。

(3) 展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 ボイストレーニングをする。 （全体）	5	○ボイストレーニングをしましょう。	○声を出しやすくするために、ブレストレーニング→ハミング練習→跳躍練習→ハーモニー練習の順にボイストレーニングを生徒がリーダーとなって行わせる。
混声合唱の豊かな響きを生かして、自分たちの思いを伝えよう。			
2 「Chessboard」を通して歌う。 （全体）	5	○今までの練習を振り返って歌いましょう。	○自分たちが目指す合唱表現に迫るために、出た課題から表現を工夫したい場面を選択し、活動の見通しを持たせる。
3 前時の振り返りを基に、本時の工夫したい箇所を確認する。 （全体）	5	○表現を練り合いたいところはどこですか。 ・Hのアカペラの部分の表現を工夫したい。 ・上品で美しく歌いたい。 ・ハーモニーの美しさを表現したい。 ・GとHに変化を付けたい。	
4 二つのグループに分かれて表現を工夫する。 （グループ）	20	○どのように歌うか意見交換をし、歌い試みよう。 ・Gはサビの要素があると思うのでHとの差を付けるためにも最後までたっぷり歌い上げたい。 ・Hはアカペラから始まる。最初の入りやハーモニーを大切に歌いたい。 ・ハミングの音程を確実に決めたい。 ・アカペラに入る前に間を開けて、静けさを演出したい。 ・Hはテンポを遅くして、たっぷり歌いたい。	
5 グループ毎に工夫した歌い方を発表する。 （グループ）	10	○それぞれのグループの工夫が伝わりましたか。 ・最初のハーモニーがしっかり合っていてきれいだった。 ・Hの前の一瞬の間がぴったり合っていてよかった。 ・GとHの差がよく分かった。	○生徒の意見を視覚的に理解できるようにするために、ロイロノートに楽譜を提示し、共有ノートを使って意見を集約させる。 ○表したい雰囲気となっているかを確認するために、自分たちの演奏を聴き返すよう促す。 ○パートの音程の不安定さを解消するために、発声方法を指導したり、ピアノで示す和音に音程を合わせるよう助言したりする。 ◎曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを踏まえて、自分たちが目指す表現について思考し、どのように工夫して歌いたいかを具体的に他者に伝えたり、歌い表そうとしたりしている。（観察・ワークシート）
6 今日の成果を録音し、本時の学習を振り返る。 （全体） ↓ （個人）	5	○今日の学習の成果を録音し、活動を通しての振り返りをしましょう。家で録音を聴いて、次時への目標をロイロノートで提出しましょう。	○次時の課題につながるように、ロイロノートを用いて、本時の学習活動を振り返らせる。

7 授業研究の視点

○グループに分かれて曲にふさわしい表現を工夫し発表する学習活動は、生徒が主体となって学び合おうとする意欲を高めるために有効であったか。

○多くの意見を集約し、表現の工夫点を効率よく取捨選択する上で、ロイロノートの活用の仕方は効果的であったか。